



The letter of
Shinseisakuza

新制作座だより

vol.7

2015 Early SUMMER

<http://www.shinseisakuza.com>

劇団創立 65周年記念



決して自分を見捨ててはいけ
ない
苦しみを乗り越える力を失
ってはいけ
ない...



文部大臣奨励賞受賞作品
真山美保 作・演出
プロローグと二幕七場

泥かぶら

劇団創立65周年記念「泥かぶら」東京公演
2015年10月 8日(木)・9日(金)・10日(土)
会場 日本橋公会堂
中央区日本橋蛸薬師一丁目01-1

・S席 6,500円(指定席)
・A席 5,000円(自由席)
・学生席 3,500円(自由席)

新制作座 〒193-0826 東京都八王子市元八王子町2-1419
TEL:042-661-0001 FAX:042-661-6702 e-mail:info@shinseisakuza.com

創立65周年記念「泥かぶら」東京公演のチラシ

「泥かぶら」 東京公演 前売り券 発売開始!

いよいよ、劇団創立65周年記
念「泥かぶら」東京公演の
前売り券の発売を開始いたしま
した。日本橋公会堂にて10月開
催です。

同封のチラシにもご案内して
おりますが、チケットのお申込み
は、下記までお願いいたします。
最終日の10月10日(土)のチ
ケットは、お早めのお申込みをお
勧めいたします。(新制作座一回)

チケットお申込み

●新制作座

WEBサイト <http://www.shinseisakuza.com>

※トップページの「東京公演」バナーからお申込みフォームへ

劇団本部 042-661-0001

●カンフェティチケットセンター

WEB予約 <http://confetti-web.com>

電話予約 0120-240-540 (平日10~18時)

※お近くのセブンイレブンでチケットの受け取りとお支払いが
可能なシステムです

新キャストたちの 稽古風景

昨年8月、愛知県二宮市の主
催公演の舞台で、序幕の

「泥かぶら」を演じた福島里佳は、
自身初めての主役を務めました。
そして今年には二幕三幕と稽古を
重ね、5月のGWも連日劇場に籠
り厳しい稽古を経て、同月12日の
新潟県五泉市での「泥かぶら」を
全幕演じる初舞台に立ちました。



泥かぶら役 福島 里佳



三郎兵衛役 富永 隆徳



次郎兵衛役 近衛 謙

同じく、次郎兵衛役で初舞台を踏んだ近衛謙と、新制作座初参加で三郎兵衛役に挑んだ東京芸術座の俳優、富永隆徳と力を合わせ、新しい時代の「泥かぶら」を創るため挑み続けています。

東京公演では、この成果を皆様へ届けるために、更に稽古に励んでいきます。(記・小津和知穂)



劇場での稽古風景



「星槎国際高等学校」

星槎高尾キャンパス副キャンパス長 山本佳世先生より

『ようこそ、八王子学習センターへ』

成27年4月9日。星槎国際高等学校の関東地区合同入学式が神奈川県神奈川立青少年センターで行われました。関東地区合同という事で、来場者は新入生や保護者を含め600名を超え盛大なものとなりました。

劇団と共に在る八王子学習センターの新入生達も、これから始まる高校生活への期待と不安を胸に抱きながら、保護者と共に真新しい制服に身を包み、会場へと来てくれました。受付で私の顔を見た生徒たちは、「制服どうですか?」と嬉々として訪ねてくる生徒や、

「人がたくさんいる…」と少し不安そうな表情の生徒など様々。しかし、どの生徒も「入学おめでとう」と伝えると、嬉しそうに「有難うございます!」と答えてくれました。

これから新入生は八王子学習センターで、たくさんある選択授業の中心には、劇団新制作座職員による「演劇専攻ゼミ」も開講されており、今年も多くの新入生が受講します。劇団と共に在る学校だからこそできる「本物の演劇」を知ることの機会を、生徒達に大切にしてもらいたいと思います。

「星槎国際高等学校」

八王子学習センター教諭 山下峻先生より

『おもいあふれる卒業式』

星槎高尾キャンパスは劇団新制作座と八王子学習センターが共に作りあげている場所であり、劇団と学校が共存する日本で唯一の場所です。

平成27年3月6日に川崎市教育文化会館で星槎国際高等学校関東地区合同卒業式が行なわれました。星槎高尾キャンパスに八王子学習センターが移転し、二度目の卒業生を送り出しました。

式中の卒業生の答辞には、学校生活への想い、仲間への想い、家族への想い、一言一言に「想い」が込められていました。3年間を思いだし、途中涙する場面は、本人も涙、会場にいた家族や友人も涙。

「泥かぶら」

「泥かぶら」

懐かしの岩沼へ

― 第5回東北応援プロジェクト岩沼公演のご報告 ―

2 015年1月18日(日)宮城県岩沼市市民会館で100

0名様を無料ご招待する公演を開催いたしました。

会場の全員が心を打たれました。星槎に関わるすべての人たちが、気持ちの一つなつたと感じました。成長した子どもたちの顔を見ていると出会った頃の思い出や日常生活での思い出が溢れてきました。

想いのつまった卒業式になったことを心より嬉しく思います。日頃からの関わりに想いがつまっていることが再確認できた日になりました。子どもたちには、卒業しても星槎高尾キャンパスで学んだことを忘れずに、社会でもまれながらも強く成長していつてくれることを期待しています。

新制作座だより第5号で紹介した、クラウドファンディングで、岩沼市に「泥かぶら」を届けるための資金を集めようとしてお

りましたが、なかなか思うようにいきませんでした。しかし、岩沼市社会福祉協議会を中心とした地元の応援と団結のおかげで、公演経費が賄える寄付が集まり、涙が出るほど嬉しく感動しました。

感謝の気持ちを少しでもお伝えできればと思い、岩沼市のデイサービスセンター「さとのもり」で歌と踊り(ソーラン節・花笠音頭)のプログラムを持って訪問。励ましを贈るつもりが、百歳のおばあ様から逆に励まして頂きました(笑)

公演前日の岩沼は吹雪。お客様様の入りが心配でしたが、当日は快晴、皆様の宣伝のおかげでほぼ満席でした。会長の三浦様は「とにかく観てください、観れば解るから来てください」と、足で一軒ずつお訪ね下さったそうです。

仙台空港のある岩沼市の海岸沿いの被害は、そこに立ってみなければ実感できない大きさでした。公演当日の朝、「千年希望の丘」の慰霊碑に「泥かぶら」のメンバー全員で黙祷を捧げました。

岩沼で教えられたことは、誠実で粘り強い努力と愛情と行動が、傷ついた心を癒し、街の復興を支

えているのだということでした。固い握手と涙こぼれる笑顔と友情、皆様のこと一生忘れません。(記・小津和知穂)

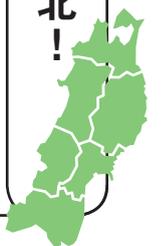


岩沼市デイサービスセンター「さとのもり」の交流会より「とても楽しくて元気をもらったよ」「素敵な笑顔とパワーに感激しました」との声をいただきました



岩沼市・市教育委員会・市社会福祉協議会の皆さんと

行くぞ東北!



『第5回 東北応援プロジェクト 岩沼公演』仮設住宅や仙台市からお越し下さった皆様のお声より

- 心に熱いものが込みあげてきて涙・涙でも感動した。
- 泥かぶらの優しく逞しい生き方、こんなに心に残る素晴らしい演劇ははじめて観た。
- 忘れかけていた、人として大切なものをあらためて教えていただいた想いがする。
- 若い時分に観た泥かぶらの感動を再び思い出して涙がでた。

岩沼市・市教育委員会・市社会福祉協議会、スタッフの皆様、ご丁寧なお礼状とお客様の感想も添えて送ってください、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

次の東北応援プロジェクトは、現在公演地の選定を行っています。引き続きご協力をお願い申し上げます。

新制作座 一同

「イベント」 ブータンからRTC 交換留学生

in 高尾キャンパス

1 月26日、今年もブータンからRTC(ロイヤルティンブーカレッジ)の交換留学生8名、講師の方1名が高尾キャンパスに来られました。

今年で4回目となる留学生の滞在、どんな生徒さん達が来校されるのか楽しみにしていました。26日、歓迎の夕食会、お互いの自己紹介から始まり、その中で留学生の皆さんの想いを聞き、この10日間が実り有るものとなるよう私達に出来る事をしようと思いました。

27日から始まった研修の1時間目、私達新制作座が日本の歌を伝えます。歌いはじめは星槎の校歌「星の槎」、次に日本の歌「故郷」、「星の槎」を歌い始めたとき、私達は驚きました。皆さんブータンにいる時に稽古をして来たことと見事に歌われます。その時継続されてる交換留学の素晴らしさを改めて感じました。

そして28日は、留学生の皆さん



RTC (ロイヤルティンブーカレッジ) の留学生の方々の着物体験の様子

と1日を共にする事が出来ました。そこで感じたのは学ぶ姿勢の素晴らしさは勿論、皆さんの仲の良さ、移動のバスの中では歌声がやまず、誰かが歌いだせば皆が歌いだす、まるでRTCでのキャンパスライフを見ているようでした。滞在中は日本の文化や先進技術の見学等々、実り多い学びをさぐら、井上理事長からのスタンププログラム終了証書授与式を経て、あつという間に帰国する日が近

くなりました。

最後の夕食時、私達と混ざり合って食卓を囲み家族の様に過ごし、歌も歌い合いました。そしてお別れの朝「またね、また会えるといいね、お元気で」日本語、英語で別れの言葉があちこちで聞こえます。涙を流しながら別れを惜んでいる人も。そして出発の時間、見送りの時に新制作座がいつもいう言葉「行つてらっしゃい！」と手を振り見えなくなるまでバスを見送りました。

今回の学びが役に立ちますようにと願い、又会える事を願つて。
(記・山形 久人)

「泥かぶら」 舞台裏のひみつ・・・

— 静岡県 浜松学芸中学高等
学校公演のご報告 —

今 年初めての講堂公演が3月16日に浜松学芸中学高等学校でありました。

学校公演は久しぶりで、私の中でも刺激を受けた公演でした。講堂が2階にあり、階段での荷降ろしと雨の中での積み込みにもかかわらず、先輩方は巧みな

技でいとも簡単に作業を終わらせてしまふのを見て、「私もあんな素敵な先輩になりたいなあ」と思いました。



楽屋はホリゾン幕の後ろの周りこみ

私は学校公演で楽しみなことが2つあります。

1つ目は楽屋作りです。体育館倉庫の中の器具を全部出し、机や椅子を借りて立派な楽屋に仕上げます。今回の楽屋は上手と下手が狭くなっているため、ホリ裏^{しも}に机と椅子を並べた特殊な楽屋となりました。俳優がメイクをしていると後ろを通りたくても通れないくらいの通路です。ホールだと中々味わえない面白味があります。

2つ目は童役の生徒達の稽古です。始めは緊張もあるせいか声の中々出せないのですが、稽古すればするほど声が出るようになるので、自分の子どもが上達していくような感覚が味わえて本番がますます楽しみになります。

浜松公演の童達は特に元気がよく覚えが良かったので、私も気合が入り自分のことよりも時間を費やしてしまいました。自分の後輩が出来たみたいで嬉しい気持ちで本番に臨めます。

今私は、泥かぶらの二幕三幕の稽古をしています。全幕立てるようになったらまた新たな楽しみが発見できるんだろうなあとうキウキウしています。(今年4月現在)

童役の生徒達に負けないように、私も二幕三幕の稽古を頑張ります！
(記・福島 里佳)

*ホリ(ホリゾン)・・・舞台やスタジオで使われる背景の幕または壁

「泥かぶら」

祝！新「泥かぶら」

— 新潟県 五泉市中学校
体育館公演のご報告 —

新

「泥かぶら」の福島里佳と、新潟、愛知と乗り打ちを無事に終え八王子に帰ると、40年前の村松町（現在は五泉市と合併）の青年団長さんから大盤振舞のお祝いの数々が待っていました。

新米（コシヒカリ）30キロと、やっとなかかえられる程の大きな竹の子。そして、そっと添えられた「お祝いの詩」に、わたしの心は喜びに満ちあふれました。本人の許可を得てここに掲載させていただきます。（記 関口佳男）

平成27年5月12日

新制作座にまた新しいページが加わりました。

晴れがましい舞台に五泉市を選んで頂きありがとうございます。ご苦労さまでした。ご苦労さまでした。

素晴らしい舞台でした。大成功でありました。新鮮な感動をまたもありがとうございます。

舞台を観ながら実は私には舞台に立っていない皆様の姿が見えて

なりませんでした。

新しい泥かぶらをよくぞ送り出してくれたものだと。

待って 育て 支えて

そしてこんなに生き生きした泥

かぶらを送り届けてくれたと。本当に本当にご苦労さまでした。

村松の米を食べて満腹満願になつて下さい。

桐生忠教



五泉市の友人と



新泥かぶらを祝して、お米と竹の子と素晴らしいメッセージをいただきました

「泥かぶら」

日本の未来は明るい

— 愛知県刈谷市公演の

ご報告 —

刈

谷市の全中学生が「泥かぶら」を観劇するのは今年で9回目、3年に一度の開催です。で1回目に観劇された生徒さんは現在40歳を越え、親子二代に涉つて観劇されたご家庭も少なくないのです。市内4万5千人の卒業生が「泥かぶら」に接しているそうです。

今回その刈谷市の舞台で近衛謙の次郎兵衛が誕生しました。永らく草村公宣先輩が持役としてきた大役です。その先輩の造型を短時間で忠実に受け継ぐために、当然のことながら、本人も周りの先輩達も不眠不休の日が続きました。しかし、近衛謙が幸せだったのは初日の舞台が刈谷市の公演だったことです。言ってみれば「泥かぶら」のふるさとで初日を迎えたようなものです。整然としながらも活気溢れる若い客席に「良い仕事をしようぞ」という次郎兵衛の最後の言葉が染み透って行きました。客席も

代を重ね舞台も代を重ね、「泥かぶら」は受け継がれてゆく・・・日本の未来に希望を感じる公演でありました。

（記 込山虔二郎）



五泉市と刈谷市の公演でデビューした俳優達

「イベント」

天の半分!!

— 国際婦人デーに寄せて —

過

ぐる3月6日「国際婦人デー」のパーティにお招きを受け、中国大使館に久方ぶりに伺いました。眞山美保先生が選ばれた振袖を着た新制作座の若

手女優達が、満員の会場ですべての人の目を奪いました。

主催者である大使夫人の素晴らしきスピーチが、この会をかがえのないものにして下さいました。

その中で語られた一つの言葉「天の半分は女性が支える」という言葉の重さと深さを改めて考え、この言葉を知っている人がどれ位いるだろう、ことに男性には知ってほしい、と思いました。

そして又考えました。「国際婦人デー」はいつまで存続しなければならぬのだろうか、と。そして、この大勢の女性達の中に若い人が極端に少ないのは何故なのだろうか。パワハラ、セクハラ、マタハラ、モラハラ・・・どれも多くの男性から女性への暴力を意味します。これらの言葉が死語になり、婦人デーが役目を終え、地球上の全ての民族、人々が平和に平等に生きられる日まで、



日中両国の方々に着物を喜んでいただけたことを感じました



中国大使館「国際婦人デー」のパーティにて

まだまだやる事が山程あることを深く認識しました。

私達にできること、それは、眞山美保作・演出の「泥かぶら」を多くの人に見てもらおうこと。今年創立65周年記念公演もあり、この熱い心をこれからも全国に届けてまいります。

(記・江崎はんな)

TOPICS

神谷さん「手打ち蕎麦」振舞う！

去る1月26日、高尾キャンパス食堂(武蔵野)にて、劇団の藤川さんたつての希望で、「泥かぶら」の中年の女役神谷令子さんが栃木県の自宅から車に手打ちそばの道具を乗せて来てくれ、劇団員20人分の蕎麦を打ってくれました。

地元、栃木県野木町の蕎麦愛好会で3年修行して、ほとんどの道具を揃えられての本格派！そして大事なものは、「三たて」の、ひきたて、うちたて、ゆでたて、この三拍子が揃ったのが美味しいの基本本だそう。材料で言えば粉、水、そして心、でも一番美味しいの

は、大勢でわいわい食べることに。神谷さんご馳走様でした！

(記・亀川忠助)

おひな祭りとお花見の集い

桜が一番美しく咲いた4月5日、おひな祭りとお花見の集いが開催されました。三号館の和室に眞山美保先生の七段飾りのおひな様、沢山のお道具、市松人形の数々が舞台にくり広げられました。

おひな様の前に正座をすると、男性がひな壇を組んだ後、美保先生と女性だけで過した日が、一度にうかんで来ました。母から子へ語り伝えられる様に先生から沢山の事を教えていただきました。特に雪月花の行事は折々に深く味わい学びました。

幕開きは、女性全員で「うれしいひな祭り」の歌。ご馳走は、ちらし寿司、はまぐりの潮汁、菜の



蕎麦を打つ神谷さん

花のごまあえ。

第二部の歌は「ピア樽ポルカ」に始り「心さわぐ青春の歌」「酒屋うた」(星槎国際高等学校二年の北野君のソロは素晴らしかった)なつかしい歌に酔いしれました。

10代〜70代の人が集り、歌い、心から笑い食事を共にして過したおひな祭りとお花見の宴。人々が集い合う事の幸福を改めて感じる一日でした。

(記・神谷令子)



真山美保先生の七段飾りのおひな様

込山さん、まゆみさん
お帰りなさい!

新 制作座に、ベテランメンバー
が復帰しました。

込山虔二郎さんと福島まゆみさんです。

込山虔二郎さんは、皆様記憶に新しいと思いますが「万国旗の子」の作者で、劇団の4期生(昭和32年入団)です。

真山美保作「青春」では、シルビーネを演じ、新制作座フェスティバルのインドネシア公演、ブラジル公演、中国公演にも参加し、テナーの歌手として、ロシア舞踊から日本民謡まで幅広いジャンルの踊り手としても活躍しました。また、舞台監督として演出家真山美保先生の信頼は絶大なものがありました。

福島まゆみさんは、昭和44年入団。真山青果劇場「頼山陽」のお淳、「泥かぶら」のこずえ、などをつとめ、劇団60周年記念公演「万国旗の子」では、アン・フォスターで女優復帰を果たしましたが、病をえて現在病気療養中。まゆみさんには、フェニックスのように舞台上に復帰する日を劇団員一同願っています。

込山さんは、劇団に残る真山美保先生の詩や文章の整理や出版などに大いに活躍くださるに違いないと思っています。

らんりの独り言「込山さん、また新作書いてくれるかな〜!?」

(記・真山蘭里)

「訃報」

藤川さん旅立ち

2 015年4月5日 午前7時45分 藤川光子さんが旅立ちました。

藤川さんは昭和37年夏に入団、劇団歴は53年になります。

舞台は「泥かぶら」の中年の女、梅吉、童、として活躍しました。「江戸城総攻」「熊」にも出演しました。

何より特筆すべき点は真山美保先生の山の上の台所を7年も勤めたことです。プライベートなお休みは1日もなかったでしょう。そして先生の最期をみとりました。

また劇団員が1000名いたころの食事、パーティの料理、四季折々の行事の食べものを作っていました。「武蔵野」が高尾キャンパスの食堂となつてからは、皆に「お母さん」と呼ばれ、その味は「カレーライス」を始め、おいしいと定評がありました。

告別式は真山先生と同じ4月8日、先生の時は桜ふぶきでした。藤川さんの時は桜に雪が舞いました。

働き者の藤川さん、天国で真山先生達とゆつくり休んでください。藤川さんありがとうございました。ごくろうさまでした。

享年72才 合掌

(記・大石晃子)



故 藤川光子さん



4月8日は桜に雪が舞いました

劇団新制作座
創立65周年記念 祝賀会のお知らせ

平成27年9月12日(土)
如水会館(東京一ツ橋)で、祝賀会が開かれます。
詳細は、追ってお知らせいたします。



NEWS

衣装部 朱鷺-toki- より

今年1月の成人の日、昨年の晩夏から初冬にかけて、新制作座 衣装部で着物合わせをし、準備をしてきたお二人が成人式を迎えました。

左の写真は、星槎グループ宮澤会長のご紹介の戸丸春奈さん。ご実家で受け継がれてきたお振袖は前撮りされ、もう一着は式当日用に、ご本人の感性で水あさぎ色のふんわりと優しい意匠のお振袖をお選びいただきました。

新年度4月から就職して社会人の仲間入りをし、楽しく通勤されているとのこと。

右の写真は、新制作座中国公演の通訳を務めた胡一平さんの長女の呂和美さん。

劇団生まれの愛称はミミちゃん。現在はアメリカ留学中で、成人式を迎えるために帰ってきていました。

着物合わせでは朱鷺色の着物も評判がよかったのですが、二十歳の今だから着られる朱色のとっておきの意匠をお選びいただきました。

その他にも、1月17日に高尾キャンパスで行われた星槎国際高等学校卒業生の成人式に、男性の羽織袴を含めた数名の晴れ着を用意させていただきました。

成人された皆様、謹んでお祝い申し上げます。これからの充実した人生とご活躍を願っております。

(記・松原 ふみこ)

衣装部「朱鷺」では、引き続き成人式や前撮り用の振袖を丁寧にお選びしています。お気軽にお問い合わせください。

劇団 新制作座
電話:042-661-0001
info@shinseisakuza.com



成人式を迎えた戸丸春奈さん(左)と呂和美さん(右)



満開のカルミアの花

編集後記

風薫る5月が過ぎ、遠くで時おりホトトギスの声が響き、ムクドリ達がそらの草むらに溢れる命をついばんで跳び回っています。若葉の緑が日に日に深くなって、梅の実が膨らんできました。「新制作座だより vol.7」が皆様のお手元に届く頃には梅雨入りしているかもしれません。うとうとしくも、めぐみの雨。

地道に種を蒔いてきたものの芽が出て、ぐんぐんと成長していく。5月に行われた「泥かぶら」通し稽古を見せていただいて、そんなことを感じました。今はたっぷり吸収して、夏を乗り越え実りの秋を迎えるのを楽しみにしています。(制作担当:松原 ふみこ)

次の「新制作座だより」は、2015年10月～11月に発行予定です。